

推薦のことば

平成24年の厚生労働省国民健康栄養調査では、わが国には約950万人の糖尿病患者がいると推定されている。このような調査が開始された平成9年と比べると、この15年間で約260万人の糖尿病患者が増加している。

厚生労働省国民健康栄養調査報告を用い年代別糖尿病頻度と年齢階層別人口から60歳以上あるいは70歳以上の糖尿病患者が全糖尿病患者に占める割合を試算すると、60歳以上は平成9年の53%から平成24年には77%に、70歳以上は25%から45%に増加している。このような事実は、近年の糖尿病の増加は高齢者糖尿病の増加であること、また全糖尿病に占める高齢者の割合が近年増加していることを示している。このような状況を考えると、糖尿病の診療には、単に糖尿病性細小血管症や動脈硬化性血管障害の発症・進展を予防するという従来の糖尿病臨床の視点に加えて、高齢医学的な視点も要求されるような時代になってきていると言える。

高齢者の最も大きい関心事は健康な長寿を楽しめるようにということであり、要介護や認知症になることは予防できるものであれば予防したいということである。高齢者糖尿病の診療には、このような高齢者の希望に沿った診療ができているかが問われることになる。

さらに、糖尿病の治療には食事療法、運動療法など生活の自己管理が必要となることが多い。また、定期的な服薬、注射など薬剤の自己管理も必要となる。しかし、高齢者の身体的、精神・心理的あるいは社会的背景は多様であり、自己管理など望めない人も少なくない。身体的にも、ほかに重篤な疾患を併発していたり、種々の臓器機能が低下している人も多く、薬剤の選択、治療に伴う安全性の確保など、成人とは異なった注意が必要となる。

本書は、高齢者糖尿病診療に関するわが国を代表するエキスパートといえる執筆陣により、高齢者糖尿病の診療の実際が最新の情報を取り入れた形で具体的に書かれている。本書は、高齢者糖尿病を診療することの多い医師はもちろん、看護師、栄養士あるいは薬剤師にとっても有用であると考えられる。

本書が広く活用され、高齢者糖尿病の診療の質が、より高いものとなることを期待している。

2014年12月

東京都健康長寿医療センター センター長
井藤英喜